

管理主体とイベント実施件数からみた公共空間の特徴

—地方都市の中心市街地における公共空間の
空間構成と利活用の在り方に関する研究(その1)—正会員○郷 大雪* 同 姫野 由香**
同 村上 大昂* 同 成清 大地*7.都市計画 c.商業地・商業空間 d.中心市街地
e.都市再生 h.街路・公共空間

1 研究の背景と目的

全国の市町村において、中心市街地の空洞化や衰退が共通の問題となっている。それにともない、平成18年のまちづくり三法により、認定中心市街地活性化基本計画が各地で策定され、まちなか居住のアメニティやにぎわい創出などを目標に、公共空間の利活用についても検討がなされている。また、国土交通省は平成17年に「地域の活性化等に資する路上イベントに伴う道路占有基準」^{注1)}を制定し、平成23年には都市再生特別措置法の拡充^{注2)}を通じて、道路の民間活用を支援している。このように公共空間の機能の拡充による都市アメニティの向上に資する規制緩和の動きもある。一方大分市では、中心市街地活性化基本計画の市街地整備事業や公共性の高い場所施設による公共空間の改善が数多く行われている。なかでも平成26年から平成27年にかけて「シンボルロード整備事業」(写真1)や「JR大分駅ビル整備事業」(写真2)などの大規模な再開発事業も完了したことで、大分市中心市街地の都市空間が大きく変化する過渡期にある。

以上の背景から、本研究では公共空間の形態指標を把握し、利活用の促進が図られている公共空間の在り方を検討する。そこで本稿(その1)では、まず大分市中心市街地活性化基本計画区域内にある公共空間の管理状況や、空間特性を明らかにすることを目的とする。

2 既往研究における位置づけ

公共空間に関する研究として、三浦¹⁾らは恒久的歩行者専用道路の国内における先駆的な事例である「旭川平和通買物公園」に対し、取り組みの変遷を明らかにすることで、社会情勢の変化との対応関係からマネジメントの課題を明らかにした。また佐々木²⁾らは同対象地に対し、統計的分析と来訪者アンケートの分析より、「買い物の利便性」の現状分析と、その向上のための課題を明らかにした。

これらの研究を鑑み、本稿(その1)では、一カ所の公共空間に着目した分析方法ではなく、中心市街地活性化基本計画の範囲内全ての公共空間に対し、空間調査や空間評価、管理状況などの分析を行うことで、それぞれの特徴を把握し、用途別に利活用の傾向を考察する。

3 本研究における公共空間の定義

本研究における「公共空間」とは、都市計画法に定められている、基礎自治体が管理する都市計画公園及び駅前広場(写真3)等の歩行者に開放された公共性の高い空間と定義する。また、商店街(写真4)は昔から人々が集

写真1 シンボルロード
(出典：大分市ホームページ)写真2 JR大分駅ビル
(出典：JR おおいたシティホームページ)

写真3 大分駅前広場



写真4 ガレリア竹町商店街

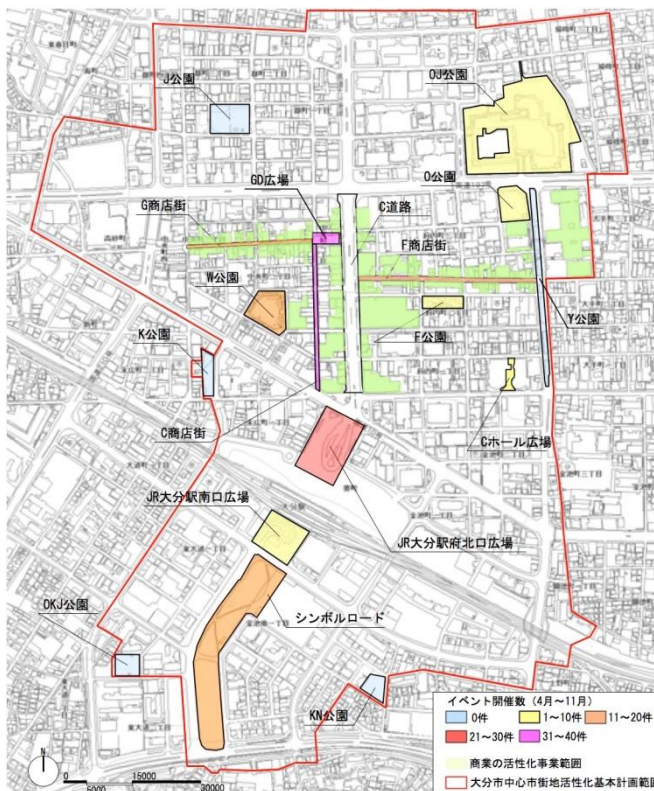


図1 公共空間の分布とイベント実施件数

まる空間であり、特に近年一般市民によるイベント活動も行われる公共性の高い空間であることから、本研究では公共空間とした。つまり、本研究の対象とする公共空間として、歩行者に開放された公共性の高い空間である、商店街を含めた計18箇所(図1)を選定した。

4 研究の方法

本研究では大分市中心市街地活性化基本計画の範囲内

の公共空間を対象として、利活用の実態を把握する。表 1 に示す管理主体、イベント開催数、面積などを調べた。本報では紙面の都合上、それぞれの「管理主体」と「イベント開催数」について論述する、中心市街地の公共空間を、管理主体ごとに分類した上で、それぞれの傾向を明らかにする。

5 対象とする公共空間と管理状況

本研究で対象とする公共空間の分布と、平成 27 年の 4 月から 11 月の期間に各公共空間で行われたイベント^{注3)}の実施件数を示す(図 1)。さらに、各公共空間の基本情報を示す(表 1)。管理主体は大きく分けて、公園を管理する公園緑地課、道路を管理する土木管理課、駅前広場を管理する駅周辺総合整備課、公共施設の指定管理者の 4 種類に分けられる。しかし、「シンボルロード」については、市民ボランティア団体である「大分いこいの道協議会」が「駅周辺総合整備課」と連携して主体的に管理運営を行っている。また、「C 商店街」「GD 広場」「G 商店街」「F 商店街」には各商店街に商店街組合が存在しており、商店街の清掃等の維持管理、市へのイベントの申請などの役割を担っている。さらに、「シンボルロード」、「商店街」では利用の許可申請先とそれぞれの管理主体は異なる。以上のことから、公共空間ごとに、様々な管理主体や許可申請先が存在しており、利用者からみてより一層複雑となっている。

次に、イベントの実施件数では、「JR 大分駅府内中央広場」「C 商店街」「GD 広場」の 3ヶ所が、4 月から 11 月までの期間で実施したイベント件数が 20 件を上回っている。図 1 と表 1 より、イベント^{注4)}実施件数が多い公共空間は、「歩行者通行量」、「平成 27 年度路線価」が全体平均よりも高く、商業の活性化事業が中心に行われているエリアであることがわかる。

6 総括

本研究では、大分市中心市街地内の、公共空間に関する用途、空間特性のデータをもとに、利活用の促進が図られている公共空間の特徴を把握した。結果より以下の 2 点が明らかとなった。

公共空間の用途は、管理主体により「都市計画公園」「都市計画道路」「駅前広場」「商店街」「公共施設内のオープンスペース」の 5 種類に分類され、「商店街」と「シンボルロード」は、振興組合やボランティア団体等の民間組織が、土地所有者である市と連携して主体的に管理運営が行われており、市民たちが利用する同じ公共空間にも関わらず、管理主体と許可申請先が複数あり、一層複雑になっていることがわかった。

平成 27 年 4 月から 11 月の期間、公共空間でのイベントの実施件数は、「JR 大分駅府内中央口広場」「C 商店街」「GD 広場」の 3ヶ所が 20 件を上回っている。(図 1)。

以上の結果より、同じ用途の公共空間でも、イベント実施件数が多い公共空間とそうではない公共空間が存在しており、それぞれの役割と違いがあることがわかった。

また、大分市中心市街地では、イベントによる公共空間の利活用は、商業の活性化事業エリアで活発的に行われている傾向にある。その背景には商店街振興組合などの民間団体が、市と連携しながら公共空間の管理運営を行っている影響があると考えられる(表 1)。

今後は、より詳細に各公共空間の空間特性と利用者の評価や満足度の関係を明らかにする必要がある。

【補注】

- 注1) 路上で行おうとするイベントに伴う道路占用の許可に当たり、条件を満たす場合においては、地域の活性化や都市における賑わいの創出等の観点から弾力的な判断を行うことにより、道路管理者として当該路上イベントを支援するものとする。
url: <http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/senyo>
- 注2) 都市の国際競争力と防災機能の強化を実現するとともに、コンパクトで賑わいのあるまちづくりを進め、あわせて、住宅団地の再生を図るための「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律案」が決定された。
url: http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi05_hh_000144.html
- 注3) 本研究におけるイベントとは、開催期間中に不特定多数の人々が参加することのできる催しものを指す。
- 注4) イベントの種別は、屋台などを利用した飲食イベント、ステージを利用した催しや音楽イベント、展示会等があげられる。

【参考文献】

- 1) 三浦詩乃 旭川平和公園のマネジメントの変遷に関する研究-, 日本建築学会計画系論文集,2014-2
- 2) 佐々木悟 中心市街地商店街の活性化と買物の利便性-旭川市中心市街地「平和通り買い物公園商店街」来街者アンケートを通して-, 旭川大学紀要 2006 年
- 3) 大分市商工労政課 第 2 期大分市中心市街地活性化基本計画書 2010 年
- 4) 大分市商工労政課 大分市中心市街地活性化基本計画書 2013 年
- 5) 駅周辺総合整備課 大分都市計画事業大分駅南土地区画整理事業概要 2006 年
- 6) 郭 東潤 中心市街地における街路空間の利活用と景観教員に関する研究-, 日本建築学会技術報告集,2006-6
- 7) 大分市商工労政課 大分市中心市街地活性化計画書 2010 年

表 1 公共空間の基本情報

用途	都市計画公園								駅前広場		都市計画道路			商店街				都市施設	平均値
	J公園	OJ公園	O公園	W公園	F公園	K公園	OKJ公園	KN公園	JR大分駅府内中央口広場	JR大分駅上内中央口広場	シンボルロード	中央通り	Y公園	C商店街	GD広場	G商店街	G商店街	複合Y施設	
管理主体	公園緑地課								駅周辺総合整備課		大分いこいの道協議会	土木管理課	公園緑地課	大分市商店街振興組合				府内5番街振興組合	コンパルホール管理課
許可申請先	公園緑地課								駅周辺総合整備課		土木管理課	公園緑地課	大分市商店街振興組合				府内5番街振興組合	コンパルホール管理課	
イベント件数(4月~11月)	0件	5件	2件	12件	6件	0件	0件	0件	24件	1件	15件	11件	0件	33件	34件	14件	14件	4件	
面積(m ²)	5,531	40,114	3,500	6,158	2,362	878	3,000	2,500	16,000	7,900	24,785	16,425	3,812	2,753	1,442	1,953	3,670	350	7,952
緑の面積の割合(上空写真%)	61	31	53	28	17	10	49	7	1	1	79	5	40	0	0	0	8	0	22
H/Dの角度(°)	18.6	4.4	19.6	10.5	22	13.9	9.4	16	11.8	12	11.1	38.9	27.4	39.9	25.9	32.7	53	48.9	23
歩行者通行量(H26年度1日平均)	3799	2691	2691	2180	1650	943	943	943	9038	5964	5964	5386	1650	10,994	5968	4343	4373	4435	4,109
27年度路線価(千円/m ²)	83	160	120	110	135	120	64	103	290	223	106	350	120	215	220	90	180	150	158
道路との接道幅の割合(%)	50	7	4	20	48	5	4	7	33%	43	65	18	20	11	29	8	6	22	20

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

GraduateStudent,OitaUniv.

** 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

Research Associate,Dept.of Architecture, Faculty of Eng.Oita Univ.,Dr.Eng